

磯遊び

<プログラムの概要>

大房岬の海辺にはたくさんの生き物が棲んでいます。干潮時には潮だまりの中で多くの生き物を見つけられます。どんな生き物がいるか、磯へ探しに出かけます。

<ねらい>

海辺の環境や生き物に触れることで、様々な発見をし、自然に興味・関心を持ちます。

場所 南芝生園地南側の磯場(タイマイ浜)

時間 2 時間半～3 時間

準備物

【自然の家からの貸出備品】

救命用うきわ(自然の家備品)を必ず持って行ってください。

バケツ(無料)、タモ網(5 本 100 円)、箱メガネ(1 個 100 円)がレンタルできます。

磯探検ツアーの場合は、5, 6 人にバケツ 1 つ、タモ網 2 つがつきます。

【持ち物】

水筒、タオル、軍手、雨具、ビニール袋、着替え

【指導者の持ち物】

ホイッスル、拡声器があると指示が伝わりやすいです

服装

濡れても良い服・靴(ウォーターシューズなど着用。サンダル不可)、帽子

準備

<時間>

出発前

潮の満ち引きを調べる。干潮時刻、満潮時刻、潮位を「潮位表」で把握しておく。

【1.備品のうけとり】

- ◆事務所にて貸出備品を受け取る。

実施の流れ

<時間>

0:00

【2.集合・磯場へ移動】

- ◆トイレを済ませ集合場所に集合。上履き、着替え、タオルを更衣場に置いておく。
- ◆持ち物・服装チェック。
- ◆引率者を先頭に、磯場へ移動。

0:20

【3.磯場到着・オリエンテーション】

- ◆導入の話
- ◆注意事項説明
 - ①遊泳禁止…潮の流れが速い場所があるため、海水がひざ上以上になる場所に行かない。
 - ②危険な生き物(クラゲなど毒のある生き物)に触らない。
 - ③岩の上は滑りやすいので走らないよう注意して歩く。
 - ④指定した範囲内で行動する…安全管理のため、引率者の目の届く範囲を指定する。
 - ⑤休憩・水分をしっかりとる…海での活動は体力を消耗しやすいため、早めの対応をとる。
 - ⑥日射病・熱中症に注意する…磯周辺には日陰がないため、必ず帽子を着用する。

0:40

【4.スタート】

- ◆時間を決め、途中休憩を入れる。
(長時間海水に浸かっていると体温が奪われます。また、水分補給もこまめにするよう促してください。)
- ◆バケツに捕まえた生き物は水の入れ替えをしてください。高温や酸素不足で死んでしまいます。

【5.指導者は安全管理を】

- ◆危険な行動や、指定した範囲外で活動している子はいないかなど、安全管理及び状況把握に努める。

【6.観察会】

- ◆時間になったら磯場からあがり、体をしっかりふく。
- ◆見つけた生き物などを観察する。
- ◆観察後、捕まえた生き物は住处へ返す。

【7.ふりかえり・まとめ】

- ◆面白かったところ、難しかったところなどを共有する。
- ◆活動中の子どもたちの様子で、よかった点などを取り上げ、次の活動につなげていく。

2:00

【8.終了・移動】

2:30

【9.自然の家到着】

うら面へ続く



片付け

【10.片付け】

- 実施終了直後
- ◆帰所後、更衣室横のシャワーで体の砂をよく落とす。
 - ◆使用した網、バケツ、タライはヤワーで洗い、更衣場前に干す。
 - ◆救命用浮き輪は更衣場に返却する。

●事故を起こさない為の確認事項

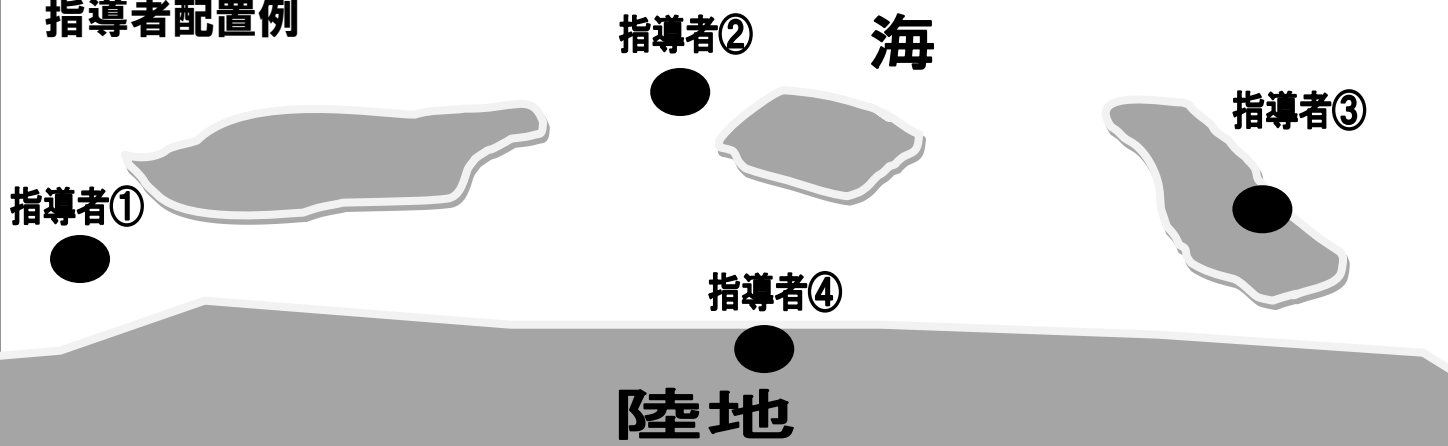
- 1 子どもを見失わないことです。野外活動中の死亡事故は、指導者が子どもを見失うことにより生じる場合が最も多いです。そのためには、注意の与え方と監視・観察が重要です。
- 2 子どもに対する注意は、
 - ・必ず集合させてから行います。
 - ・子どもに対する注意は、活動前だけでなく活動中も継続させます(子どもは夢中で最初の注意を忘れます)。
 - ・単に「危ない」「いってはいけない」というだけでなく、何故危険なのかをしっかりと説明します。
- 3 子どもの数に応じた指導者の数を揃えるだけでなく、指導者間において役割分担を定めることが重要です。(監視体制の確立) これにより、子どもが実施場所を越えないように見守ります。
- 4 遊ぶ場所の注意は「範囲を明確に」伝えます。

⇒①見失わない ②明確な注意 ③人員確認 ④役割分担

●監視体制

- 1 活動範囲を明確にし、その活動範囲を囲むように人員を配置します。少なくとも海の中は活動範囲を三方(一番海側、右・左側)から囲みます。陸上からは高いところや全体が見渡せる位置に1名配置し全体把握します。
- 2 笛など合図を決めます。波音などあり全体に声が届きにくいです。笛などであらかじめ、集合や注目などの合図を決めておきます。
- 3 子ども達自らの人員確認のシステムを作ります。2人1組のバディや数人のグループなどお互いの位置を確認します。合図があればそのバディを確認などと決めておくとういでしょう。海に入る前に一度陸上で練習するなどした方がよいでしょう。

指導者配置例



●磯の地理的環境情報

磯の地形や潮だまりの状況等はスタッフにおたずねください。